2.　RMC試験サイクル

以下に掲げるRMC試験サイクルについて、試験エンジンをダイナモメータにより運転するものとする。

RMCモード	モード時間(a)	エンジン回転速度(a)(c)	トルク（%）(b)(c)
1a　定常状態	126	暖機アイドル回転速度	0
1b　移行	20	直線移行	直線移行
2a　定常状態	159	中間回転速度	100
2b　移行	20	中間回転速度	直線移行
3a　定常状態	160	中間回転速度	50
3b　移行	20	中間回転速度	直線移行
4a　定常状態	162	中間回転速度	75
4b　移行	20	直線移行	直線移行
5a　定常状態	246	定格回転速度	100
5b　移行	20	定格回転速度	直線移行
6a　定常状態	164	定格回転速度	10
6b　移行	20	定格回転速度	直線移行
7a　定常状態	248	定格回転速度	75
7b　移行	20	定格回転速度	直線移行
8a　定常状態	247	定格回転速度	50
8b　移行	20	直線移行	直線移行
9a　定常状態	128	暖機アイドル回転速度	0

(a)　この表において使用するエンジン回転速度の項に掲げる用語は、1. の表において使用する用語の例による。

(b)　トルク（%）は、指定したエンジン回転速度の最大トルクに対する比率とする。

(c)　モード間の直線移行は、20±1秒間で行うこととする。当該移行については、現在のモードのトルク設定から次のモードのトルク設定まで直線的に制御し、エンジン回転速度設定に変更がある場合は、同時にエンジン回転速度も同様に直線的に制御するものとする。

別添四十一1別紙2の5・中「$F_y=\frac{\sigma_{y^2}}{\sigma_{ref^2}}$」を「$F_y=\frac{\sigma_{y^2}}{\sigma_{ref^2}}$」に、「$N_{ref-1}$」を「$N_{ref}-1$」に、「$F_{crit90}$」を「$F_{crit95}$」に改める。

別添四十一1別紙7の1・3・中「$CH\alpha O\beta S\gamma N\delta$」を「$CH_\alpha O_\beta S_\gamma N_\delta$」に、「$\alpha$は」を「αは」に、「$\beta$は」を「βは」に、「$\gamma$は」を「γは」に、「$\delta$は」を「δは」に、「wc」を「$w_C$」に、「$CH\alpha O\beta$」を「$CH_\alpha O_\beta$」に、「原子モル比$\alpha$」を「原子モル比α」に、「原子モル比$\beta$」を「原子モル比β」に改める。

別添四十一1別紙7の3・3・中「n_{int}」を「$\dot{n}_{int}$」に、「m_{fuel}」を「$\dot{m}_{fuel}$」に、「n_{exh}」を「$\dot{n}_{exh}$」に改め、同別紙7の3・3・中(b)を(c)とし、(a)を(b)とし、(a)の前に次を加える。

(a)　ブローバイ・ガス流量

ブローバイ・ガス流量について、次のいずれかに該当する場合にあっては、$\dot{n}_{int}$又は$\dot{m}_{fuel}$を用いて希釈しない排出ガス流量を計算することができる。

(i)　ブローバイ・ガスを吸気流量計の下流側の吸入空気に送り戻すブローバイ・ガス還元装置を装着した排出物制御装置が、試験エンジンに備えられている場合。

(ii)　試験中、6.10.に基づき大気開放するブローバイ・ガスを、エンジン排気に引き込んでいる場合。

(iii)　大気開放するブローバイ・ガス排出物及び流量を測定し、実質排出量を加えた場合。

(iv)　大気開放するブローバイ・ガス排出物の流量を無視しても、適用される基準に支障がないことを、データ又は科学的分析により実証できる場合。

別添四十一1別紙7の4・1・(c)中「$m_{bkgnd}=M_{gas}\cdot x_{gasdil}\cdot n_{airdil}$」を「$m_{bkgnd}=M_{gas}\cdot x_{gasdil}\cdot n_{airdil}$」に、「$m_{bkgnd}=M_{gas}\cdot\bar{x}_{dil/exh}\cdot\bar{x}_{bkgnd}\cdot n_{dexh}$」を「$m_{bkgnd}=M_{gas}\cdot\bar{x}_{dil/exh}\cdot\bar{x}_{bkgnd}\cdot n_{dexh}$」に改める。

別添四十一1別紙7の5・1・1・の見出し中「NRTCモード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（RMC試験サイクルにより実施するものに限る。）及びNRTCモード法」に改め、同別紙7の5・1・1・中「$W_{act}=\sum_{i=1}^{N}P_i\cdot\Delta ti=\frac{1}{f}\cdot\frac{1}{3600}\cdot\frac{1}{10^3}\frac{2\cdot\pi}{60}\sum_{i=1}^{N}(n_i\cdot T_i)$」を「$W_{act}=\sum_{i=1}^{N}Pi\cdot\Delta ti=\frac{1}{f}\cdot\frac{1}{3600}\cdot\frac{1}{10^3}\frac{2\cdot\pi}{60}\sum_{i=1}^{N}(n_i\cdot T_i)$」に、「$P_i$」を「Pi」に、「NRTCモード試験の場合」を「NRTCモード法の場合」に、「不定期（定期）の排出ガス再生」を「周期的再生」に、「k_rで補正するか、」を「(k_{Mur}（上方調整係数）及びk_{MDr}（下方調整係数))」に、「とk_{Dr}」を「及びk_{Dr}」に改める。

別添四十一1別紙7の5・1・2・中「ディーゼル特殊自動車8モード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（ディスクリート試験サイクルにより実施するものに限る。）」に改める。

別添四十一1別紙7の5・2・1・の見出し中「NRTCモード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（RMC試験サイクルにより実施するものに限る。）及びNRTCモード法」に改める。

別添四十一1別紙7の5・2・2・中「ディーゼル特殊自動車8モード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（ディスクリート試験サイクルにより実施するものに限る。）」に改める。

別添四十一1別紙7の付録1・1・1・中「標準体積率」を「標準体積流量」に、「体積率」を「体積流量」に、「質量率」を「質量流量」に改める。

別添四十一1別紙8の2・1・1・の見出し中「ディーゼル特殊自動車8モード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（ディスクリート試験サイクルにより実施するものに限る。）」に改め、同別紙8の2・1・1・中「ディーゼル特殊自動車8モード試験の各モード」を「ディスクリート試験サイクルの各モード」に、「$q_{mgas,i}=k_h\cdot k\cdot u_{gas}\cdot q_{mew,i}\cdot c_{gas,i}\cdot 3600$」を「$q_{mgas,i}=k_h\cdot k\cdot u_{gas}\cdot q_{mew,i}\cdot c_{gas,i}\cdot 3600$」に、「ディーゼル特殊自動車8モード試験のモードi」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（ディスクリート試験サイクルにより実施するものに限る。）のモードi」に改める。

別添四十一1別紙8の2・1・2・中「NRTCモード試験」を「ディーゼル特殊自動車8モード法（RMC試験サイクルにより実施するものに限る。）及びNRTCモード法」に改める。

別添四十一1別紙8の2・5・4・中「$q_{mew,i}=q_{mf,i}\cdot\left[\frac{1.4\cdot w_C^2}{(1.0828\cdot W_C+k_{fd}\cdot f_c)f_c}\left(1+\frac{H_a}{1000}\right)+1\right]$」を「$q_{mew,i}=q_{mf,i}\cdot\left[\frac{1.4\cdot w_C^2}{(1.0828\cdot w_C+k_{fd}\cdot f_c)f_c}\left(1+\frac{H_a}{1000}\right)+1\right]$」に、「$W_C$」を「$w_C$」に改める。

別添四十一1別紙8の3・2・中「別紙7」を「別紙8」に改める。

別添四十一1別紙8の3・4・1・中「$m_{ed}=1.293\cdot V_0\cdot n_P\cdot\frac{p_p}{101.3}\cdot\frac{273}{\overline{T}}$」を「$m_{ed}=1.293\cdot V_0\cdot n_P\cdot\frac{p_p}{101.325}\cdot\frac{273.15}{\overline{T}}$」に、「$m_{ed,i}=1.293\cdot V_0\cdot n_{P,i}\cdot\frac{p_p}{101.3}\cdot\frac{273}{\overline{T}}$」を「$m_{ed,i}=1.293\cdot V_0\cdot n_{P,i}\cdot\frac{p_p}{101.325}\cdot\frac{273.15}{\overline{T}}$」に、「rev／Dt]」を「rev／Δt」に改める。